

# 令和3年度（2021年度） 教育目標と経営方針

## 1 本校教育の基盤

本校の教育は、日本国憲法及び教育基本法に則り、学校教育法・中学校学習指導要領・福岡県教育大綱・福岡県学校教育振興プラン・福岡県教育施策実施計画・小郡市教育大綱・小郡市教育振興基本計画・令和3年度小郡市教育施策実施計等に基づき、子どもの人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた心身ともに健康な人間の育成を期す。

また、保護者や地域の願い及び子どもの心身の成長段階等に即して、知育・徳育・体育・食育の面から、**人権・同和教育の視点を基盤**に据え、調和の取れた教育を推進する。

そのため、教職員一人ひとりが自己研鑽を積み、たゆまぬ努力によって、理想を実現するための充実した教育を行う。

## 2 学校教育目標

「夢と志をもって主体的に学び 心豊かにたくましく生きる生徒の育成」

生涯学習の基礎を培うという観点に立ち、『自ら学ぶ意欲と変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、人生を切り拓いていくことができる人間の育成』を図ることを基本的なねらいとしている。

一人一人が自分の生き方や考え方を見つめ、自分らしく生きることができる教育、学習者である生徒が学習に対する意欲をしっかりと持ち続けることのできる教育を目指していきたくと考えている。

<p>○夢と志をもって主体的に学ぶ</p> <p>※理想を実現しようとする高い志や意欲をもって、主体的に学びに向かう</p> <p>※試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していく</p>	<p>○心豊かに</p> <p>※生命を大切にし、人権を尊重する心</p> <p>※自他のよさを認め合う心</p> <p>※礼儀をわきまえ、他者を思いやる心</p> <p>※様々な人々と協働する心</p>	<p>○たくましく生きる</p> <p>※感性を豊かに働かせながら、意欲的に努力する態度</p> <p>※主体的な学びの定着</p> <p>※粘り強くあきらめない気力と体力</p>
---	--	--

## 3 具体的目標

<p>— [めざす生徒像] <b>個性や能力を伸ばす生徒</b> —</p>						
校訓	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">自 主</td> <td style="text-align: center;">創 造</td> <td style="text-align: center;">誠 実</td> </tr> </table>	自 主	創 造	誠 実	<p>「<b>自主</b>」: 自ら考え、正しく判断し、進んで行動する生徒</p> <p>「<b>創造</b>」: たくましさや個性を備えた創造的な生徒</p> <p>「<b>誠実</b>」: 素直で思いやりのある心の豊かな生徒</p>	
自 主	創 造	誠 実				
<p>○<b>〈知〉</b>自ら学び、自ら課題を解決しようとする生徒</p> <p>基礎・基本の学習内容を確実に身につけ、自らの課題解決に向け主体性を発揮し、努力することができる</p> <p>○<b>〈徳〉</b>互いのよさを認め合い、自己肯定感を高め、協同・協働できる生徒</p> <p>一人一人の個性や存在を認め合い、豊かな人間関係を築きながら共によりよく生きようとする事ができる</p> <p>○<b>〈体〉</b>心と体の健康を大切にし、自らを鍛えようとする生徒</p> <p>健康や安全について関心をもち、自他の心身の健康保持・増進や体力の向上に努めることができる</p> <p>○<b>〈コミュニケーション〉</b>感じる心や思いやりの心を持ち、生き生きと活動しようとする生徒</p> <p>すべての活動の基本となる仲間を大切にし、一人一人の個性や存在を認め・尊重し合い、協同・協働の精神で学校生活に取り組むことができる</p> <p>○<b>〈グローバル化〉</b>国際社会の中で主体的に活躍できる、心豊かでたくましい生徒</p> <p>世界的な課題に協力しながら、積極的に対応できる人として成長していくために、広い視野をもち、自ら発信できる</p>						

〔めざす授業像〕 **よくわかる授業**

- 主体的・対話的で深い学びを保障する授業
- 基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、個性伸長の基礎づくりを図る授業
- 自ら学ぶ目標を定め、主体的な学習活動の方法を身につけさせる授業
- 交流活動(対話や議論)等を通じて、自分の考えを根拠をもとに伝えるとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを深めたり、集団としての考えを発展させる授業
- 体験的な学習や問題解決的な学習により、学習の喜びや成就感を味わわせる授業
- ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業

〔めざす教師像〕 **信頼される教師**

- 公教育に携わる者としての使命感をもち、常に自己研鑽を積み、専門職としての確かな資質や能力を高め、他から信頼される教師
- 協業・協働を重んじ、進んで研究・研修し互いに研鑽し合える教師
- 生徒の可能性を信じ、自ら自己改革を求めながら生徒とともに伸びる教師
- 生徒とともに苦しみや喜びを共有できる豊かな感性をもち、心身ともに健康で明朗な教師
- 被差別側のいたみを共有し、人権問題の課題解決に向けて実践する教師
- 危機管理意識をもち、全職員で共通理解・共通実践をすすめる教師

〔めざす学校像〕 **力のある学校**

☆ 「力のある学校」をめざして…大切にしたい8つの要素

- ① **【チームワーク】** 気持ちのそろった**教職員集団**
  - ・ チーム力を引き出すリーダーシップ
  - ・ 信頼感にもとづくチームワーク
  - ・ 学び合い育ち合う同僚性
- ② **【共通のビジョン】** 戦略的で柔軟な**学校運営**
  - ・ ビジョンと目標の共有
  - ・ 柔軟で機動性に富んだ組織力
- ③ **【仲間づくり】** 豊かなつながりを生み出す**生徒指導**
  - ・ 一致した方針のもとでのきめ細かな指導
  - ・ 子どもをエンパワーする集団づくり
  - ・ 子どもをエンパワーする(エンパワメントする)とは、「自らの内なる力に気づいてそれを引き出していく」ということ
- ④ **【授業づくり】** すべての子どもの学びを支える**学習指導**
  - ・ 多様な学びを促進する授業づくり
  - ・ 基礎学力定着のためのシステム
- ⑤ **【地域との連携】** ともに育つ**地域・校種間連携**
  - ・ 多様な資源を生かした地域連携
  - ・ 明確な目的をもった校種間連携
- ⑥ **【生活・学習習慣(家庭との連携)】** 双方向的な**家庭とのかかわり**
  - ・ 家庭とのパートナーシップの推進
  - ・ 学習習慣の形成を促す働きかけ
- ⑦ **【快適な教室(雰囲気)】** 〈掲示物・作品など〉安心して学べる**学校環境**
  - ・ 安全で規律のある雰囲気
  - ・ 学ぶ意欲を引き出す学習環境
- ⑧ **【特色ある学校】** 前向きで活動的な**学校文化**
  - ・ 誇りと責任感にねざす学校風土
  - ・ 可能性をのばす幅広い教育活動

[参考資料：志水宏吉／スクールバスモデル・2007(H19)年 より]

キーワード

【チームワーク】 【共通のビジョン】 【仲間づくり】 【授業づくり】  
 【地域との連携】 【生活・学習習慣(家庭との連携)】  
 【快適な教室(雰囲気)】 【特色ある学校】

4 本校経営の基本方針

かけがえのない存在である生徒一人一人を大切にし、個々の生徒の自己実現を支援する教育に努めるとともに、教育目標を達成するため、教育課程の編成及び学年・学級経

営を具体化し、協動的な職員体制により諸教育活動を推進する。

- (1) 教職員同士の学び合いを通して教職員間のチーム体制を構築し、そのチーム活動を通して個々の教職員の専門性を高め、学校の組織的教育力の向上を図る。
  - 教育実践の質は、教職員間の関係の質→思考・判断の質→行動の質→教育の成果(結果)という循環サイクルの中で高まる。この循環サイクルを効果的に稼働させる仕組みを創りだしていく。その役割を担っているのが、学年、教科、校務分掌上の各種委員会といったチームであり、そこで行われる「チーム学習会議」となる。「チーム学習会議」を計画的に位置づけながら、チームが組織の課題を学習することを通して、チームメンバー各人の専門的力量を向上させていく。「チーム学習会議」では、共同思考・共同学習を展開し、そのプロセスの中で個々の教職員が有する知識や経験、スキル等を他の教職員が共有する場としていく。
- (2) 生徒たちに知・徳・体にわたる「生きる力」を育むことを目指し、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から特色ある教育課程の編成と実施に努める。
  - 教科等ごとの枠の中だけではなく、教育課程全体を通じてめざす学校の教育目標の実現に向けた各教科等の位置づけを踏まえ、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、他の教科等における指導との関連づけを図りながら、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むことをめざしていく。
- (3) 人権・同和教育の理念と視点に基づき、福岡県人権教育推進プラン及び指導の手引きを活用し、また小郡中学校『いじめ防止基本方針』に則り、全領域での人権・同和教育の深化・充実に努める。
  - 全教育活動を通じて、自分を大切にするとともに他の人をも大切にす取組をすすめる。特に、道徳の時間を要とし、豊かな人間関係を築く素地づくりのため、また規範意識の向上のため、すべての教育活動において道徳教育を推進する。
  - いじめ・不登校における生徒への支援をはじめ、心の居場所を求めて悩む生徒への丁寧な支援を重視した効果のある仲間づくりや集団づくりを実践していく。
- (4) 生徒・保護者の信頼に応えるため、また実践的指導力を高めるため、教育に関する新しい情報や動向を収集し、計画的・組織的な職員研修に努める。
  - 校内研修の充実およびキャリアアップ講座、研究発表会、教育研究所委託研究など、校外での研修へ積極的に参加する。また、OJTや校内研修等を活用した教職員の職能向上および人材育成をすすめる。
- (5) 学校を内・外に開き、家庭・地域との連携を密にし、協力して生徒の教育にあたる。
  - 小学校との連携を深める。(いじめ・不登校の情報交換、学習指導の交流、各種行事への参加)
  - 学校運営協議会の充実を図るとともに、「まちづくり」連絡協議会など、地域の関係各機関と連携を密にし、協力関係の強化に努める。
- (6) 施設・設備の充実・改善を図りながら、活力ある教育環境の創造に努める。
  - 生徒が学習しやすい、活動しやすい環境づくりに努める。
- (7) 効果的な教育活動を行うことができるように、学校における業務改善等に関する取組を積極的に進め、労働環境の整備に努める。
  - 校内安全衛生委員会の活性化を図るとともに、学校や教職員自らが業務の範囲や進め方について、問題意識をもち、見直す意識をもち、教職員間で議論・共有し、役割遂行のための手段・方法・体制等を再構築していく。
  - 部活動に関しては、共通の目標達成に向けて互いに切磋琢磨する中で、社会性を育むと同時に自己実現を図ることをめざす。また、『小郡市部活動の在り方に関する指針』に則り、活動方針および活動計画を明確にし、合理的でかつ効率的・効果的な活動を図る。

## 5 本校経営の重点

### (1) 生徒の実態(成果と課題)

#### ① 学力

- 学力調査結果は県平均を若干上回り、持続的に学力が向上している
- 2極化・3極化が見られ、特に低位層の基礎・基本の定着に力を入れる必要がある
- 「意欲」「忍耐力」「自尊感情」「自信」等の非認知能力を育てる必要がある

② 豊かな心

- 「思いやり、感謝」「礼儀」「生命の尊さ」などの道徳心が育っている
- 「主として自分自身に関すること」の項目が弱く、不登校傾向の生徒が増加

③ 体力

- 「持久走」は全学年で向上が見られる
- 「筋力」「瞬発力」に課題がある
- 健康と安全を自らで守る力(自己健康管理能力)の育成が必要である

(2) 教育課題

物事を『自分ごと』として捉え、考え、行動できる生徒の育成…非認知能力〈やり抜く力・協働する力・自分をコントロールする力・対処能力〉の育成

- ・学習面における2極化・3極化解消
- ・低位層の基礎・基本の定着と自学自習(家庭学習)の定着
- ・自他を大切にし、人とつながるための豊かな人権感覚の育成
- ・不登校生徒及び兆候生徒(サポート教室登校生徒)の解消
- ・自分の課題を明確にし、学習や運動に粘り強く取り組む態度の育成

(3) 経営課題

「(教職員一人ひとりが)変わる」「(解決すべき課題を)見つける」「(教職員と教職員、教職員と保護者・地域、保護者と地域を)つなぐ」

- ・教職員のつながりを大切にした人材育成(指導力向上)、協働的運営体制の強化
- ・不登校の解消、いじめ・不登校の未然防止(効果のある「集団づくり」の取組)
- ・教職員の危機管理意識の向上と危機管理体制の強化(迅速な意思決定と行動)
- ・保護者や地域、小学校等とのつながりを大切にした信頼される学校づくり
- ・教職員のワーク・ライフ・バランスのとれた生活の実現(負担感軽減、モチベーション向上、子どもと向き合う時間の確保)

(4) 重点目標

物事を『自分ごと』として捉え、考え、行動できる生徒

- 自分の行動や感情をコントロールできる生徒
- お互いを認め合い、集団の一員として協働していく生徒
- 自分(たち)の課題の解決に向けて、粘り強く取り組む生徒

(5) 経営の最重点項目

上記の経営課題・教育課題より、次の3点を重点に取り組む。

- ① 確かな学力の向上〈目的や課題を重視し、見方・考え方を働かせた授業づくり〉
- ② 豊かな心と健やかな体の育成〈自分や他者を大切にする心豊かな集団づくり〉
- ③ 信頼される学校づくり〈学校・家庭・地域の連携による子どもを育てる環境づくり〉

(6) 経営の最重点項目達成のための具体的な取組

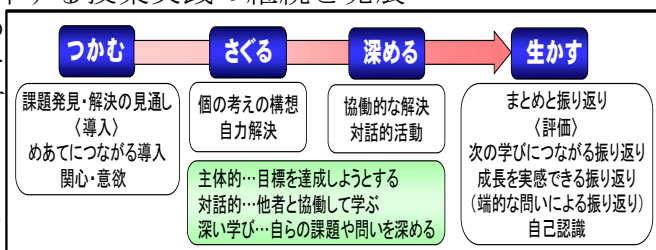
【確かな学力の向上】〈目的や課題を重視し、見方・考え方を働かせた授業づくり〉

※課題意識の重視、書く活動の重視、ICTの活用、非認知能力の育成

※低位層(正答率3割以下)個々の生徒の「伸び」や「定着状況」の重視

- 基礎・基本の徹底と人権・同和教育の視点に立った「よくわかる授業づくり」に努める〈誰ひとり取り残さない学力保障、進路保障〉
- 主体的・対話的で深い学びを保障する授業実践の継続と発展

「つかむ」→「さぐる」→「深める」→「生かす」の学習の流れを教師と生徒で共有、定着をめざす  
 ※目的や課題を重視し、課題の解決に向け、自分で粘り強く考え、自分から取り組むことができるようにする学びの実現と「何ができたようになったか」というまとめや振り返りを大切にする授業づくり〈課題意識の重視と学びの意義・価値の実感〉



※事実を書く(情報を取り出す力)、関係をとらえて書く(情報を関連づけてまとめる力)、論理的に書く(根拠を明確にして主張する力)〈書く活動の重視〉

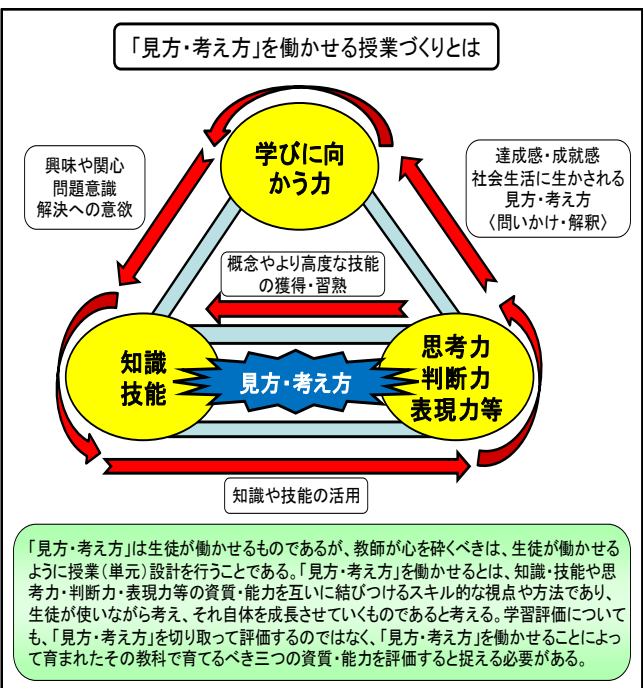
※各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりさせる〈深い学びの実現〉

- 少人数分割授業、TT授業等の指導方法工夫改善と個に応じた指導方法を工夫していく
- 『小郡中 仲間とつながり、共に育つための学習規律6か条』を教師と生徒が常に意識して、主体的な学びにつなげる…生徒会と連携を図る
- 各教科等の中でICTを活用し、学びを深化させたり、学びを転換できる学習活動を仕組んでいく
- 校内研修を定例的に位置づけて、授業改善を組織的に推進し、生徒のよさや可能性を生かす授業づくりにつなげる〈全教職員で共有し学ぶ〉

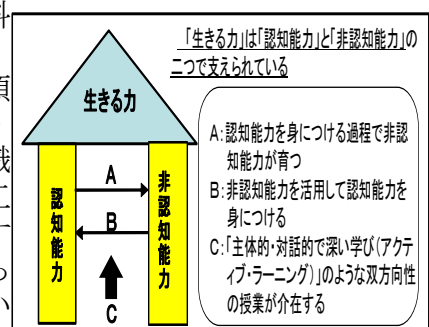
- ・全教職員による授業研究の実施
- ・ICTを活用した授業研究
- ・学力向上プランの検証と改善(C, Aの徹底)
- ・生徒による授業評価の実施と結果等による検証改善体制の確立
- 9年間の家庭学習の手引きの活用と家庭学習の習慣化を図る
- ・授業内容の定着度を高める宿題(宿題の質の向上)

- 生徒の「伸び」や「定着状況」をデータをもとに定期的に検証を行い、教職員の受けとめや意識のズレを確認(校内研修及び教科部会の充実)しながら、授業改善につなげていく

- 「非認知能力」の育成については、全教科・全領域で育成していくが、特に〈自己認識(やり抜く力)〉と〈自制心(精神力が強い)〉を育成することを教職員が意識して丁寧に取り組み、見取っていく…「工夫する」「手順を考える」「試行錯誤する」「没頭する」体験と生徒同士で「相談する」「頼る」「頼られる」体験を仕組んでいく〈「やればできる」という自信、「頼りにされている」という実感〉



- ・外部講師等の招聘と指導助言
- ・充実した「道徳科」授業の研究
- ・小中合同研修会の充実



【豊かな心と健やかな体の育成】〈自分や他者を大切にできる心豊かな集団づくり〉

- ※不登校の予防と解消、丁寧な生徒支援と生徒理解の充実
- ※部落差別の現実に深く学び、生徒の心に響く人権学習の創造
- ※子どもたちの学びや思いが見える教室環境づくり、効果ある集団づくりの実践

- 差別やいじめのない集団づくり、他者の立場に立って考え行動できる生徒の育成に努める
  - ・学級や学年経営の充実と生徒が主人公となる学校や生徒会等の行事を活かした仲間(人間関係)づくりと環境づくりの重視…効果のある「集団づくり」の実践
  - ・体験学習(職場体験・赤ちゃんふれあい体験等)のさらなる充実
    - 〈「目標設定の活動」→「挑む活動」→「振り返る活動」〉
  - ・生徒会との連携及び生徒会活動を通して、生徒の自治的能力の向上をめざす
- 不登校の予防と解消、小郡中「いじめ防止基本方針」に則った取組を推進する
  - ・教育相談の充実とカウンセリング機能の向上(学期ごとの教育相談の充実)
  - ・いじめ不登校対策検討委員会の定例化および日常の情報交換体制の確立
  - ・「不登校チェックリスト」「学校生活・環境多面調査」の積極的活用、毎月のいじめアンケートの確実な実施など丁寧な取組を行う
  - ・小さなサインを見逃さない生徒理解の充実と諸会議の機能化

- ・心が通い合う体験(構成的グループエンカウンター、グループワークトレーニング、ロールプレイ等)を活用した学級・学年集団づくりに努める
- SC、SSWやSS、子育て支援課等と連携した教育相談体制の機能化と定例の生徒指導部会での総括・共有を行い、フォローアップの方向性を明確にする
- 生徒の実態を把握し、全職員の共通理解の下、生徒指導の3つの機能を生かした指導…問題を抱える生徒には受容的に接しつつも、問題行動には毅然と対応(「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」)
- 年間指導計画に基づいた道徳の内容・時間の確実な実施とそこで育てた内面的資質を基盤にして人権学習のさらなる充実・深化を図る
- 部落差別の現実によく学び、教材集「あおぞら2」等の効果的活用による、生徒の心に響く人権学習の創造と教育活動全体で科学的認識力を高める
  - ・教職員が自ら人権意識と指導力を高める研修の工夫と部落差別解消推進法・県条例などの法令等の制定背景を踏まえての保護者・地域への啓発推進
  - ・部落問題・個別の人権課題・「賤称語」や「ガイジ発言」などの解決をめざす授業づくりの充実…「協力・参加・体験」を重視した指導方法の追究と差別情報に生徒が惑わされない取組
- ともに学びともに育つための特別支援教育を推進する(情報交換や研修の充実)
  - ・インクルーシブ教育システム構築のための学校体制整備…安全・安心かつ効果的に学べる教育環境の整備、専門性向上と支援体制の整備・充実
- 個々の能力や適性に応じた啓発的・実践的なキャリア教育の充実に努める
  - また、キャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、生徒自身の変容や成長を自己評価させ、(キャリア・パスポートの活用)系統的な指導の工夫に努める
- 内容項目「向上心、個性の伸長」「希望と勇気、克己と強い意志」「真理の探究、創造」「社会参画、公共の精神」「勤労」については、道徳の時間において重点化を図り、教科や特別活動、学校行事等とも関連させて指導の充実に努める
- 体力に関しては、全教職員が体力向上への取組の意識を高め、体力向上コーディネーター(保健体育科教師)のリーダーシップのもと、組織的な取組を推進する

**【信頼される学校づくり】〈学校・家庭・地域の連携による子どもを育てる環境づくり〉**

- ※〈凡事徹底〉…基本的生活習慣が身についた生徒の育成
- ※子どもが主体となった「共学協働」「地域貢献」の視点に立った取組の推進
- ※小中連携の強化、家庭・地域への発信・啓発強化、学校運営協議会の充実
- 「時を守り 場を整え 礼を尽くす」、「当たり前」のことが「当たり前」にできる」〈凡事徹底〉等の基本的生活習慣が身についた生徒の育成に努める。また、家庭との連携による基本的生活習慣の確立を目指す。
  - ・自分から元気に挨拶する      ・地域の方々に挨拶する      ・掃除で汗をかく
  - ・遅刻しない      ・自らゴミを拾い学校をきれいにする      ・履き物を揃える
  - ・「ハイ！」と返事ができる      ・家庭学習の習慣化      等の徹底
- 小中連携の強化を目指す…中一ギャップの解消に向けた授業や行事、小中合同研修の充実に努める
- 学校だより・HP・学年通信等を通して、情報を積極的に発信し、保護者・地域住民からの理解と参画を得られる開かれた学校づくりに努める(発信・啓発強化)
- 関係団体との連携強化し、学校支援ボランティア等、地域教育力の活用を図る
- 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を充実させ、組織的・継続的な教育活動の改善を図る…子どもの命と安全を守る教育や体制づくりの協議、地域と連携・協働した防犯や防災のための教育充実及び体制整備を進める
- 生徒・保護者・教職員のアンケートをもとにして学校評価を実施し、教育活動の検証と改善を図る
- 生徒が地域の一員であることを意識させ、他の人や地域の安全に貢献できる能力を育成する…子どもが主体となった「共学協働」「地域貢献」の視点に立った取組を進めることで、生徒も地域も潤うという発想を大事にする
  - ・クリーン大作戦の充実、地域行事等への積極的な参加
  - ・防災意識の高揚と地域とともに安全な環境の整備を進める(安全マップの作成)
- 「働き方改革」を積極的に推進し、地域・保護者の理解と協力を得る

☆ 「チーム小郡中」実現のための努力点〈「気づき動く教師」「信頼される教師」〉  
～教職員の協働運営体制の強化および人材育成(指導力向上)のために～

チーム小郡中としての協働的な教職員体制  
共通認識・共通実践・協働実践を大切に

○ 学校経営参画意識と使命感

「チーム小郡中」を常に意識し、チームで取り組む動きを報告、連絡、相談、調整、指導、支援、援助により校務の遂行を何より担当教師のリーダーシップとベテランの知恵と経験、中堅の行動力そして若年の創造力と挑戦意欲など、各年代層の強みを出し合いながらの人材育成

○ 「気づく」感性と意識(生徒の変化、環境の変化等)

気づいたら動く、気になったら動く、動いて知る、知ったら共有し全員でかかわる家庭との連携(電話でなく家庭訪問の重要性、信頼関係の構築)、家庭への支援  
家庭への啓発を一人一人の生徒の「生命と人格の尊重」を

○ 危機意識(未然防止、予防の視点で)

危機意識を持って、事後対応ではなく、予防の視点・積極的生徒指導の視点から生徒指導にあたる(想定外は通用しなくなっている)

○ 専門職(プロ)としての自覚と使命感に基づき、研修を積みながら校務の遂行を

生徒を「変える」教育活動を推進するためには、我々も常に指導力の向上を目指していかなければならない。授業力向上の研修はもちろん、予防の視点からも様々な問題(いじめ、不登校、保護者対応等)について、「問題に対するとらえ方・見方のポイント、アンテナの張り方」等の積極的な研修への参加を

○ 望ましい「隠れたカリキュラム」の実現を(雰囲気づくり、言動、態度等)

教職員間、児童生徒間、教職員と児童生徒間の人間関係や、学校・学級の全体としての雰囲気などは、まさに学校教育における人権教育の基盤をなすもの  
「生徒は教師の背中を見て育つ」…我々教職員の言動や行動は重要となる

※10分間清掃時間(無言清掃)は生徒と一緒に汗を流す等、生徒とともに活動

【参考】 「隠れたカリキュラム」の例

「いじめ」を許さない態度を身に付けるためには、「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分である。実際に、「いじめ」を許さない雰囲気が浸透する学校・学級で生活することを通じて、児童生徒ははじめて「いじめ」を許さない人権感覚を身に付けることができるのである。だからこそ、教職員一体となつての組織づくり、場の雰囲気づくりが重要である。

☆ 課題(今後、特に大切にしたいこと)は、教職員が自律的・自主的・協働的に行動できるようにすることである。それが、生徒たちにとっての生きたモデルになるからだ。しかし、教職員の実践の個人差が大きい、マンネリ化した教育実践、教職員による人権に関わる不適切な発言などの課題がすべての学校にある。

教育実践の水準を低下させる要因は3つある。①教育実践の曖昧さ(「見える化」されることを嫌がる)、②個業意識と遂行目標志向(自己流が当然になっていることが問題)、③教職員組織の相互不干渉な状況(疎結合システム)の3つは連鎖して、教職員の実践にマイナスの影響を与える。この3点に本気で介入しなければ、教育実践も向上しない。【支えあう、学びあう、高めあう教職員集団の中で、教職員は成長していく】…ぜひ、『見える化』『理想的な教育実践の追求』『組織意識』を意識するとともに、教職員同士でダイアログを行う場を設定していきたい。

☆ 綱紀の厳正な保持と服務規律の確保について

職務の執行の公正さに対する市民等からの疑惑や不信を招くことがないように、率先垂範して綱紀の厳正な保持と服務規律の確保を図っていく。本校においても定期的に研修や不祥事防止のためのチェックリスト等を実施し、自らを振り返っていく

- ・交通事故および飲酒運転の防止
- ・体罰の防止
- ・わいせつ行為の防止
- ・薬物乱用の防止
- ・個人情報の適切な取扱
- ・その他信用失墜行為の防止
- ・学校徴収金の適切な管理
- ・利害関係者からの贈答品の收受等の禁止
- ・朝の挨拶の励行等

6 学校経営の全体構想図

